



長門の話題

Topics

消防署で実車を使用して救助訓練 警防技術の伝承を図る

6月29日(土)、長門消防署で車両を使用した教養および救助訓練が行われ、消防署員約50人が参加しました。これは、警防技術の伝承事業の一環として実施されたものです。

この日は走行可能な車両の構造を研修し、まず車両の部品の名称や役割、注意点についてくわしく学びました。



▲人が閉じ込められたという想定で車の屋根を取り除く

▼消防署員の世代交代が進む中、貴重な研修



続いて、事故の際に搭乗者を救助するためのドアやガラスの破壊の方法について救助器具を使いながら説明があり、全職員が交代で実際に体験していました。

参加者は真剣に聞きながら、メモをとったり写真やビデオにようすを収めていました。



▲速い球にも負けずに打ち返す(女子)

▼野球に比べて塁間が狭いので、試合は一層緊張感が高まる(男子)



長門市で全日本ソフトボール中国大会開催

長門で中国地区代表を争う

7月6日(土)から7日(日)にかけて、長門市内で全日本総合ソフトボール選手権大会中国予選会が行われました。

男子は、ふれあいパーク三隅で9チームが参加、熱戦が繰り広げられました。この結果、日新製鋼(広島県)、三菱自動車水島(岡山県)、ウエダバッテリー(広島県)

の3チームが9月に群馬県前橋市で開催される全国大会に駒を進めました。

女子は、日置総合運動公園で8チームが参加して試合が行われ、平林金属株式会社(岡山県)とDAN・DAN(島根県)の2チームが同じく9月に長崎県で開催される全国大会への出場を決めました。

生誕110年記念ミュージカルオーディション 憧れの世界に一步踏み出す

7月6日(土)、ルネッサながとで、10月に上演される童謡詩人金子みすゞの生誕110年記念ミュージカル「金子みすゞの世界」こだまでしょうか「仙崎編」のオーディションが行われ、市内外の小学生から一般までの39人が参加しました。

オーディションは、自己紹介や童謡などの歌、語りや朗読などで審査されました。参加者は「はじめは緊張したけど楽しかった。これから稽古を頑張っていきたい」と笑顔で話しました。



▲何が獲れたかな?(地引網体験スクール)

▼親子で釣りに挑戦(フィッシングスクール)



長門ヨットフェスタ2013、スタート 長門の海の恵みに感謝

今年も長門ヨットフェスタが開催されました。

6月29日(土)、関連イベントのマリン塾「地引網体験スクール」が深川湾で行われ、約70人の親子が参加しました。

主催者あいさつの後、さっそく参加者は、地引網を体験しました。声をかけ合いながら力いっぱい網を引くと、網

の中には、大きなスズキなどたくさんの魚が入っていて、子どもたちは手に取ったり恐る恐る触るなどして喜んでいました。

また、7月7日(日)には、湊漁港でフィッシングスクールが開催されました。このイベントには、12家族30人の親子が参加し、サビキ釣りに挑戦しました。

警察庁長官表彰伝達式 警察活動に20年に渡り協力

7月4日(木)、山口県警察本部で警察庁長官表彰の伝達式が行われました。表彰を受けたのは天野秀雄さんです。天野さんは平成4年12月から警察活動協力医として検視の立会や検案に従事し、約600人の市内での遺体の検視などに関わってきました。

表彰を受けた天野さんは、「このような表彰を受けて、身に余る光栄です。これからもがんばります」と話しました。

警察庁長官表彰は山口県では平成22年以来となるもので、本年度は全国33都道府県で41人が表彰を受けています。

▼今年は県内からは天野さん1人が受章





長門のPeople

長門市行政改革懇話会、始まる

次世代に責任を持つために

7月3日(水)、長門市役所で第1回「長門市行政改革懇話会」が開催されました。この懇話会は、今年度策定する第3次長門市行政改革大綱についての意見を述べるもので、大綱は、長門市を健全な姿で次世代を担う子どもたちに引き継いでいくことを基本に策

定します。大西市長から委嘱状が交付された後の意見交換会では、「今の市役所や職員に欠けていること」「職員の意識改革」「定員管理の適正化」などについて厳しい意見が出されました。懇話会では11月中旬に提言書を提出する予定です。



▼夏の日差しの中を笑顔でウォーキング



長門市健康づくりのつどい

笑顔で健康づくりに取り組み

7月13日(土)、ルネッサながと周辺で長門市健康づくりのつどいが開催されました。山口県立大学の青木邦男教授のウォーキング講座のあと、76人の参加者は会場の外に出て、約1キロあるウォーキングコースを約30分かけて歩きました。

恒例の「海岸清掃の日」

今年も美しい海岸を守る

7月7日(日)、市内各海岸で一斉に海岸清掃が行われました。市では、毎年「海岸清掃の日」を定め、市内で一斉に海岸清掃を行うこととしています。

▼この日集められたゴミは約7.2トン



▼作品について語る第15代坂倉新兵衛氏



今年の海岸清掃は、市内9カ所で1,313人が参加し行われました。

いはいは、「汗汗フェスタ」でした。「面白いレースが始まる」と聞いて、すぐにバイクを購入しました。最初はチームで出場していましたが、現在は、マイペースで走れるソロで3時間の耐久レースに挑んでいます。

師事。昭和53年に第15代坂倉新兵衛を襲名しました。日本工芸会に所属し、日本伝統工芸展を中心に出品を続け、これまで26回の入選を果たしてきました。県教育委員会での会議を経て、8月上旬に正式に認定を受けることになっています。

自由気ままに無理なく

自分自身に挑戦する

岩男明生さん (65)

灼熱の太陽が照りつける標高333mの高原「千畳敷」。ここで毎年開催されているマウンテンバイクの3時間耐久レース『汗汗フェスタ』は、1周43.2km、標高差は93.7mという過酷なコース。日本海を望む絶景のロケーションがファンの心をつかみ、長門の夏に欠かせない一大イベントとなりました。20回目を迎えた記念すべき今大会は、8月4日(日)に開催されます。15回以上出場を続けてきた岩男さんは、毎年心待ちにしているこの大会へ出場するため、今日も練習を重ねています。

40歳を過ぎて出会った競技スポーツは苦手で、趣味ではじめたゴルフもすぐに飽きてしまいました。しかし、テレビ中継されたトライアスロンに引き込まれました。画面に映し出された選手の涙の涙を理解しようと、40歳を過ぎた男の最も過酷な競技への挑戦が始まりました。

魅力は、緊張感

マウンテンバイクとの出会い

「面白いです」と聞いて、すぐにバイクを購入しました。最初はチームで出場していましたが、現在は、マイペースで走れるソロで3時間の耐久レースに挑んでいます。トライアスロンのバイクとは違い、道幅の狭い山道は障害が多く、ギアの切り替えやブレーキング、コース取りなど一瞬の判断ミスが転倒の可能性を高めます。だからレース中、眼下に広がる絶景には目もくれず、前輪の先を見つめペダルをこぎ続けます。

いつまでも若くいたい。年に数回、トライアスロンをこなし、年齢別で優勝経験もある岩男さん。「トライアスロンに出場する前は完走できるか不安になるが、『汗汗フェスタ』は、待ち遠しくてわくわくする」と胸の高鳴りを押さえきれないようです。動体視力や瞬発力など歳をとれば衰えるものもありますが、長い競技生活を送れるよう、自由気ままに無理なく、己の限界へと挑戦します。